

# 農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 令和7年10月30日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用  
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ **大豆** 収穫時期を迎えています。汚損粒発生防止のため、事前に青立ち株や大型雑草を抜き取るとともに、莢先熟がみられるほ場では子実水分・茎水分の低下を確認のうえ、速やかに収穫を行いましょう。
- ◆ **小麦** は種後に除草剤を散布していないほ場では、小麦の生育や雑草の発生状況や草種に応じた土壌処理剤を選択し、必ず除草剤を散布しましょう。また、ほ場が乾いた条件では積極的に麦踏みを行い、凍上害や倒伏防止に努めましょう。

## 1 大豆

葉の黄化・落葉が遅れ、平年より3日程度遅く成熟期に達しました。

収穫時期を迎えていますが、莢が付かず落葉しない青立ち株に加え、莢は成熟しているものの茎水分が低下していない、いわゆる莢先熟の株が見られます。汚損粒を発生させないよう、青立ち株のほ場からの撤去や、茎水分の低下を確認するなどの確な収穫期の判断が必要です。

### (1) 収穫前の抜き取り

青立ち株や大型雑草などは収穫前までにはほ場から撤去してください。青立ち株や大型雑草等は汚損粒の原因となるだけでなく、コンバインのカッター等で切断されずリール周辺で豆に接触して裂莢を増加させることがあります。また、オペレーター等が刈取りに集中できず、大幅に作業効率が低下します。

### (2) 適期収穫

収穫適期（茎水分 50%以下、子実水分 18%以下：分枝が手でポキポキと折れる時期が目安）に達した大豆は速やかに収穫してください。晴天等が続くと裂莢が急激に進むほか、子実水分が低下しすぎると乾燥調製時などに豆が割れやすくなります。また、収穫が遅れると紫斑粒やしわ粒、腐敗粒の発生が増加します。収穫作業のポイント等は「農作物技術情報第7号畑作物」（令和7年9月25日発行）をご覧ください。

## 2 小麦

降雨の影響によりは種作業の遅れがみられましたが、出芽、初期生育は良好です。既には種適期を過ぎていきますので、これからは種を行う場合、年内にできるだけ茎数を確保するため、は種晩限から1週間遅れるごとには種量を10%増やしてください。

イネ科雑草は赤かび病の第一次伝染源となるほか、倒伏の助長や収穫物の汚損を招きDON汚染のリスクを高めるため、早期に除去することが重要です。

### (1) 雑草防除

小麦4葉期まで散布可能な土壌処理剤もあります。は種後に土壌処理剤を散布していないほ場では、除草剤の登録内容を確認し、**土壌処理剤を必ず散布**してください。越冬前に土壌処理剤が散布できなかった場合には、越冬後、雑草が小さいうちに茎葉処理剤を散布してください。

### (2) 麦踏み

表1にあるように、麦踏みは茎数の増加や倒伏防止などに大きな効果があります。近年雪が少ない年が続いていますが、積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や、土壌が軽い火山灰土などでは、麦

踏みは特に有効です。積極的に麦踏みを行ってください。

ただし、ほ場が乾いていることが実施の条件となりますので、排水不良のほ場や土壌水分が高い場合、あるいは碎土率が極端に低い場合は実施を避けます。

#### ※麦踏みの実施方法・実施時期

- ・鎮圧ローラーやタイヤなどを用います。
- ・実施時期は、小麦4葉期～雪解け後の**茎立ち前（概ね4月上旬）**まで。
- ・回数は、越冬前・越冬後それぞれ1回以上を目標にします。暖冬年や種が早い場合は回数を増やします。

表1 麦踏みの主な効果

| 効 果        | 内 容 等                                          |
|------------|------------------------------------------------|
| 茎数の増加      | 主稈や早期分げつを一時的に抑制する芯止めの効果などによる。                  |
| 倒伏の防止      | 節間伸長の抑制や草丈の短縮、稈基部の重量増大によるもの。                   |
| 凍上害の防止     | 霜柱の発生による根の浮き上がり等による枯れ上りを防ぐ。                    |
| 耐寒性と耐干性の強化 | 麦踏みにより葉が傷つけられ、それ以降細胞溶液の濃度が高まる。                 |
| 生育の均一化     | 主稈や早期分げつの生育が抑制される反面、弱小分げつの生育が促進され、全体として生育がそろふ。 |

### (3) 雪腐れ病の防除

県北部や高標高地帯など、根雪期間が長い地域では薬剤防除を行います。この場合、例年発生している雪腐病の種類に応じて薬剤を選定します。

ここでは、県内で発生が多い雪腐褐色小粒菌核病と紅色雪腐病について、防除薬剤と防除時期を紹介します。

| 雪腐褐色小粒菌核病                                                                                                    | 防除薬剤                                                    | 防除時期                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| <br>褐色で2～3mm程度の菌核を多数形成    | トップジンM水和剤、<br>バシタック水和剤75、<br>オキシンドー水和剤80、<br>キノンドー水和剤80 | <b>根雪前</b><br><br>薬剤散布後に2週間以上根雪にならなかった場合または30mm以上の降雨があった場合は再散布                         |
|                                                                                                              | フロンサイドSC                                                | <b>根雪開始の1か月程度前から散布可能</b><br><br>薬剤散布～根雪開始の期間に積算降水量が120mm以上または日最大降水量65mm程度の降雨があった場合は再散布 |
| 紅色雪腐病                                                                                                        | 防除薬剤                                                    | 防除時期                                                                                   |
| <br>遠望するとほ場が淡紅色に見える。菌核はない | トップジンM水和剤、<br>オキシンドー水和剤80、<br>キノンドー水和剤80                | <b>根雪前</b><br><br>薬剤散布後に2週間以上根雪にならなかった場合または30mm以上の降雨があった場合は再散布                         |
|                                                                                                              | フロンサイドSC                                                | <b>根雪開始の1か月程度前から散布可能</b><br><br>薬剤散布～根雪開始の期間に積算降水量が120mm以上または日最大降水量65mm程度の降雨があった場合は再散布 |

雪腐病は連作ほ場ほど発生が多い傾向が見られます。このため、耕種的対策として、常発地では輪作を取り入れる、融雪期には消雪を早め排水を図る、融雪期追肥により生育の回復を図る、などの対策を行います。

【資料利用上の注意】

- この資料に掲載している農薬の情報は、令和7年10月27日現在の農薬登録情報に基づいています。
- 農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任をもって使用してください。

(資料作成年月日：令和7年10月27日)

(4) 排水路の点検

明きょや排水路の点検整備を行って、滞水による湿害等を防いでください。



写真1 明きょがしっかり施工されず滞水した様子

次号は11月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は  
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理  
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。